

委員会だより

< 9月1日(日) 9名出席 >

- 7 月度財務報告
- 敬老のお祝いについて
 - ◆実施日:9月8日(日)
 - ◆敬老ミサ後、「サロン」にて歓談(自由参加)。
- 第五地区湘南セミナー関連報告(小野寺)
 - ◆チラシを近隣教会に出向いて配り、説明をしてチケット販売への協力もお願いする予定。(中和田--200枚 戸塚--200枚 原宿--50枚の割り当て)
 - ◆協賛金として当教会は 15,000 円を拠出。
- 一粒会報告
 - ◆9月23日(月・祝)開催の一粒会大会への参加者は、現時点で12名の予定。
 - ◆8月分献金 36,500 円を送金。
 - ◆昨年の大会のビデオテープが来ている。見たい人は申し出る。
- 「泉区民クリスマス」について
 - ◆拠出金 30,000 円を承認。
 - ◆聖歌隊練習の会場提供の件確認。(原則毎週金曜日 19:00 ~ 21:00)
 - ◆(光熱費その他として 10,000 円を申し受ける)
 - ◆出し物の件、小谷氏がハーモニカ独奏を承諾。
- 卓球大会報告(福島)
 - ◆8月25日(日)に予定どおり開催。出場者 10 組、応援 20 人。若い人の参加が少ない。

壮年会だより

< 9月15日(日) 5名出席 >

- ◆委員会報告(9月度)(内容は教会報を参照)
 - ◆7 月度財務報告
 - ◆敬老のお祝いについて
 - ◆第5地区湘南セミナー関連報告
 - ◆一粒会報告
 - ◆泉区民クリスマスについて
 - ◆卓球大会報告
 - ◆議案
 - ◆9, 10月の聖書朗読
 - 9/22 小野さん
 - 10/6 美底さん
 - 10/27 清水さん
 - ◆バザーについて
- 食品価格と数量検討
- 焼き鳥 300円×100
 - 焼きそば 200円×130
 - 焼イカ 200円×100
 - 飲み物 日本酒も少し用意する。



ミサ 当番表 (2002年 10、11月)

月/日	主日	朗読、奉納	侍者	オルガン	月/日	主日	朗読、奉納	侍者	オルガン
10/6	年間第27主日	壮年会		美底	11/3	年間第31主日	壮年会		美底
10/13	年間第28主日	青年会	下迫(瑤)	岩 淵	11/10	年間第32主日	青年会	下迫(瑤)	岩 淵
10/20	年間第29主日	婦人会 A 地区	石井(大)	森 田	11/17	年間第33主日	婦人会 B 地区	下迫	森 田
10/27	年間第30主日	壮年会	石井(拓)	美 底	11/24	王であるキリスト	壮年会	石井(大)	美 底

当番の方は10分前には集合して下さい。ご都合の悪い方は典務委員(萩原氏: Tel 802-6258)迄お申し出下さい。

持ち帰りが結構多いので、容器の検討が必要。
 売り場担当者
 焼き鳥 橋さん
 焼きそば 下村さん
 焼イカ 宮崎さん
 ポップコーン機械の購入、レンタルを調べる。
 子供が担当する出し物があると良い。

- ◆その他
 - ◆秋の遠足の検討を山田さんをお願いする。
- ◆次回壮年会 10月20日

婦人会だより

< 9月15日(日) 15名出席 >

- ◆委員会報告(委員会だより参照)
 - ◆婦人会関連事項
 - ①バザーについて
 - ◆値段の変更
 - カレーライス:300円⇒200円(一食当たりの量をへらして)
 - ケーキと紅茶:150円⇒100円
 - ◆手作り品の提出は9月末日迄に役員宛にお願いします
 - ◆新品不用品の提供をお願いします。
 - ◆紅茶ティーバッグとスティックシュガーの寄付もお願いします。
 - ◆委託販売のお申し出は早めをお願いします。
 - ◆バザー当日の売り場担当表を掲示します。ご記入下さい。
 - ◆値段つけの作業日は、10月17日(木)10時~夕方です。
 - ◆バザー前日のお手伝いは、10月26日(土)10時~夕方です。
 - ②お知らせ
 - ◆故甲斐ミヨ子さん納骨ミサ
10月5日(土)10時より中和田教会にて。
 - ◆お見舞:花坂一さん、萩原幸子さんがご入院中です。霊的花束を用意しますので、お祈りをお願いします。
 - ◆お帰りなさい:荒木捷子さん(Tel-803-2416)
連絡網は松下久美さんの次にいらしてください。
 - ◆チャリティーコンサートのご案内
その1. フォルン演奏会 10月19日(土)戸塚教会 1000円
その2. ケーナ演奏会 10月25日(金)関内ホール 3000円
 - ◆購入のご協力を!
その1. プロポリス(申込みは阿部映子さんへ)
(ブラジル フマニタス活動支援)
その2. 2003年度カレンダーと絵葉書(申込みは岩崎さんへ)
(日本カトリックボランティア連絡協議会活動支援)
- 次回例会は、10月25日(日) 当番はA地区です。



広報 なかわだ

第 283 号

2002年 10月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行
泉区中田北1丁目9-1
Tel. (045) 803-6141
平成 14年 10月 6日

10月の予定

委員会	10月 6日
壮年会、婦人会	10月 20日
バザー	10月 27日
サロン	10月 13日
レジオ	10月 11,18,25日



これは真に、このままでは、すませない

山崎 正俊



これは驚いた。妹が病室とトイレとの入口に目印として大きな造花を付けて、すぐわかるようにしようとしたのに、父は目が薄くなっていたので反対の方に行ってしまう、目的の場所がわからず、泣き声をあげて、廊下の真ん中にもらしてしまったのだ。隣のベッドにいた老人を、知人である宿屋の気安い主人と思いこんでいたのだそう。そして、「この女中さんたちは、お揃いの白い制服を着ているね」と言って感心していたそう。

その時87歳になっていた父は、ボケてしまい、マッサージ師のおっさんがあまりにも上手であったので、あとで高いことを要求されるかもしれぬことをおそれて、二度目には「もういらぬ」と言って、体を触らせないのだそう。看護婦さんは困って、私に何とかしてくれと訴えてきた。そうしたら、今は手元にお金を持っていないからだとわかり、大笑いになった。好きでそうなったのでもないのにということで、マッサージさんのことは理解してもらえた。

特に長生きしたいのでもないのに、老人になるということは悲しいことだ。私もこの頃、それに近くなってしまった。"オサナガエリ"しているという言葉がある。なんという暖かい言い方だろうか。

元気なときには、大きな声で幼い子どもたちを叱り飛ばしていたのに、いまは、その面影はない。鉄道建設の土方たちの親方として肩で風を切っていた姿は、まったく見えないのだ。よくも今までもったものだ、今では思う。高等工業の土木科で測量などを3年ほど学んだだけの若僧が、収入は多く、金回りはよい、ということで、たいへんな羽振りだったらしい。まるで信じられない。時代の違いかもしれない。大正時代はそうだったのだろう。親父の威光とはそういうものだったのだろう。

はじめての病院生活をしていた私は、看護婦さんを呼ぶベルを知らないということさえ気がつかないほどだから、不自由なこと限りなし。などを思い知らされてもいるのだが、私がいま、転んで背骨を傷めてコルセットをしているのは、歩行具を利用することに気がつかなかったからで、年配の看護婦さんに訊ねなかったからだと叱られるような無知だったからだとことらしい。左手の指が不自由で食器を持てなかったから、右手だけでうどんを食べる羽目になり、そのこともお医者さんに知らせることができなかったせいでもあるだろうか。だから、見舞に来てくださったお客さんに、うどんの曲食いをご披露する羽目になった。献立には、片手で食べるための「ト書き」など見たこともなかった。それでも、同室の人たちには親切な人が多く、食事を載せた盆を運んでくださる方もあって、「お互いさまですから」と言われると涙がこぼれる。なんのお返しも要求されず、「当たり前のことですよ」と言われる。ひとりよがりの、心賤しい、「すぐに物忘れをする奴」であったかと気づかされる。

「これを忘れてはならない」「これからの私の生き方はどうしたらよいか」を、いよいよ強く心に刻まなければならない。これは驚いた。これは真に、このままで過ごすてはならない。パウラ・モンタルさんの遺言。

この世にはいろんな人がいるだろう。イエズスさまの愛を教えられた。あの十字架の上の祈り、あのまことの祈りの愛の心。

(2001. 9. 20)

幼児期の信仰教育について思う



石井 悠子

最近孫たちの成長に伴い、彼らの信仰教育について気になりだしました。わが子の時は、私自身は子育てに無我夢中でしたが、教会はカテキスタの方が中心になって要理指導をして下さっていたので、四人の息子たちはそれなりに今日に至っています。

しかし、こんにちの孫たちを少し間を置いて眺めると、"かみさまとは"とか"かみさまはいつもいっしょにいらっしやる"とかいうことを通して、早く、しかも自然に"かみさまの存在"がわかるようにすることが大切ではないかと思うようになりました。

幼児洗礼の場合、洗礼を受けることにより教会共同体の一員となるのですから、すなわちキリストの"証し人"としての生をうけたことになるわけです。ですから、一人ひとりの子どもと、それを取り巻く周りの人々との関わりがいかにかつ大切かということになると思うのです。特に父親、母親との関わり、たとえば、授乳時の語りかけとか日常の接し方などがずいぶん影響を与えたいと思います。「祈り」や「感謝」などといったことも、分つても分らなくても会話や行動のなかで示していくことが大切だと思うのです。2歳近くになれば、「アーメン」と言えばそのしぐさをするようになりますし、個人差はあると思いますが、知恵がついてくれば"悪"も同時に芽生えてきますので、この時期の信仰教育が必要かつ大切ではないかと、わが孫を見て思いました。

否定語は決して言わず、「かみさまは寛大でいらっしやる」とか「だれ一人例外なく、先に無償で愛してくださっている」といったことを、事あるごとにその子に合った言動で教えていくことが、親の使命ではないかと思えます。時には自己中心的に、"自分だけに神様が目を向けてくださっている"とか考えがちな私は大いに反省しなければと、孫と接するなかで思うことがあります。

つい最近のこと、次男の結婚がととのいつつあるあるときに、彼に「僕は知らないうちに洗礼を受けており、いつのまにか信徒になっていた。親が教会に行くから、ただついて行っていただけ」と言われて、びっくりし、ガッカリいたしました。"子どもの受洗の意味"も含めて、何が大切なのかを考えるよい機会を与えられたと思えました。

"よいことは子孫に伝えていきなさい"というキリストの精神に従って、その大切な"よいこと"を子どもたちにきちんと伝えていくのが親の使命ではないでしょうか。その意味で、幼児教育がいかにかつ大切かを、いましみじみとっております。



横浜教区一粒会常任本部 委員長からのメッセージ

中和田教会 一粒会委員

横浜教区一粒会常任本部委員長より、会員の皆様へのメッセージがございました。会員でない方にも、ご参考の一助になるかと考え掲載いたします。



横浜教区一粒会会員の皆様へ

主の平和

会員の皆様にはお祈りと献金を通じて一粒会の事業に参加、ご協力をいただきありがとうございます。

本年度の第1回本部委員会が、去る4月20日開催されました。議題は、

1. 2001年度決算の承認
2. 本年度一粒会大会について
3. 各地区の活動報告等

でした。決算内容は別紙の通りですが、皆様の熱意により献金は5,100万円と前年比570万円増となりました。支出では、神学生養成援助金として教区へ4,000万円、司祭援助金として200万円、教区分担金300万円を予算通り納付いたしました。席上、神学生養成援助金の使途について質問があり、梅村司教様から説明がありました。

今年度の一粒会大会は、9月23日、横浜市青葉区のカリタス女子短期大学を会場に、神奈川第2地区の皆様によって準備されています。開催地区の皆様のご尽力に感謝申し上げますとともに、大会成功のために皆様のお祈りもお願い申し上げます。

本年度も昨年に引き続き、青少年を対象とした地区活動に助成を行ない、多くの召命を願いたいと思っております。

本会の目的である、祈りと物質的一粒を結集し、横浜教区関係の司祭の召命と成聖に寄与できますよう、共に活動を進めて参りたいと存じます。

会員の皆様のお力添えを心からお願い申し上げます。

2002年6月3日
横浜教区一粒会
常任本部委員長 福本 俊輔



横浜教区「一粒会」大会に出席して

一粒会委員 竹内広治

多くの感動と発見を過去の一粒会の大会に見だし、主の導きと豊かなご計画に、思わず心のなかで快哉を叫び、新しい感謝と喜びを味わったことを私達は覚えております。

35回に及ぶ歴史の意義を探りながら、変化の時代といわれる今、私達は如何に対処し支え祈るべきか?、硬い気持ち先立つ中で、何かの目覚めを期待して私はこの大会に、8名のお仲間と一緒に参加いたしました。

平成14年9月23日秋分の日、神奈川県北東部に位置する横浜市あざみ野、繡酒な住宅地の一角を占める、カリタス女子短期大学を会場として、第35回一粒会大会が開催されました。メイン会場の壇上のスクリーンには、今大会のテーマ～召し出しを考えよう～「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい」(ルカ5:4)と大書された横断幕が吊り下げられ、雰囲気はそれらしく高揚して参りました。当日は時折り小雨がパラつく生憎の曇天でしたが、それにも拘らず多数の参加者があり、(事務局の発表で約600名以上)大盛況で、準備に何の関係もない私までもが顔がほてって、すっかり嬉しくなりました。

次いで当日のお話の内容をあれこれで紹介し、伺ったお話やご意見のなかに時折り感じたある印象、それはピリ辛い現実やら、おもわず微笑むスイートな逸話などとりどりですので、不確かな記憶ですが、感想としてまとめ、ご報告に代えたいと思います。拙文ゆえ、当日の明るい情景、解放感あふれる雰囲気をお伝えできないのが残念です。

◆プログラム◆

☆子供プログラム

10:15 集合

10:30 梅村司教を囲んで聖歌の練習。アーメン・ハレルヤを手話で。

残念ながらこの集まりには参加しておりませんのでノーコメント。大会の本来あるべき姿は、子供たちを中心とした司祭召命への啓蒙イベントなのですから、将来に向かっての第一歩として評価されると思います。

☆一般プログラム

10:30 開会。司会(一粒会大会実行委員会)

10:45 基調講演。講師 板垣 勤神父(東京カトリック神学院院長)

院長＝厳格というイメージとはほど遠い温和な風貌。ソフトな口調で諭すように講演を展開され、核心に迫れば明快な指摘で聴衆を引きつけ、ときおりユーモアを交えるアクセントが素晴らしい。一同「流石だな」と異口同音。講演の中のポイントを何点か…。

- ・沖に漕ぎ出し漁をせよ・ルカ福音書にある「沖」についての説明が懇切になされました。
- ・会員にお願い。神学生に甘やかすは危険です。節度ある接し方を。
- ・神様は全てご承知です。肩の力を抜きましょう。ごくごく自然体でありのままに。

13:00 パネルディスカッション～「私の召し出し」～

パネラー：梅村司教。飯野神父(金沢)中村神父(大和)古川神父(中原・溝の口)

制約された時間内では、思うように話がまとまらず、四苦八苦のパネラー方。ご愛嬌ですとは失礼な言い方ですが、かえって親近感が生まれ、神父方がより身近に感じられました。

子供たちからの素朴な質問。神父様は日曜日以外の毎日、何をしていますのですか?パネラー一同互いに顔を見合わせ苦笑い。何とか上手くいいてくるめ無事終わり。ご苦労様でした。

14:15 「司祭、修道者の召し出しを願う」ごミサ

梅村司教司式で行なわれ、壮重な流れの中、壇上に居る神父方と、ベトナム神学生の紹介が司教によって行なわれ、閉会の挨拶をもって意義深い大会が、祈りと感謝と激励の拍手のうちに終わりました。

